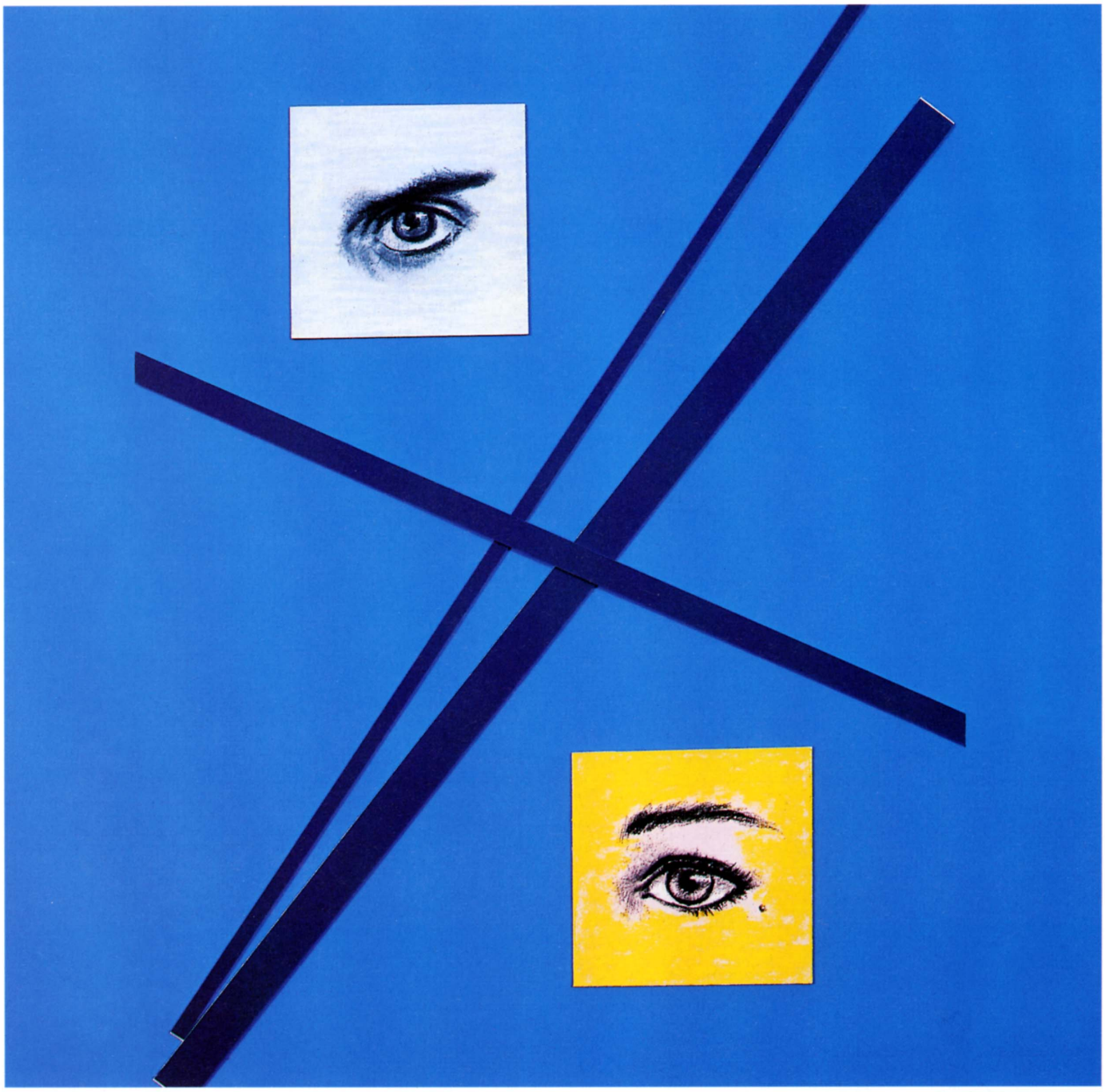
男女共同参画社会をめざす

New Wave No.12

ニューウェーブ

平成16年（2004年）8月25日発行



今、男の世界が揺れている！

発行／横須賀市　市民部男女共同参画課

R100
古紙配合率100％再生紙を使用しています

★このリーフレットはご自由にお持ち下さい。

「男らしい」生き方を支える女性たち

もし男性が「男は仕事、女は家事育児」という性別役割分担を当たり前のこととして受けとめているとしたら、母や妻、職場の同僚など一生のうちにかかわる多くの女性たちはみな、いつでもどこでも男性の補助的役割を担ってくれる存在と考えてしまうでしょう。

そして女性たちもまた、こうした男性の期待に無意識のうちにこたえようとしてその役割をすすんで引き受けているのではないでしょうか。

このように女性が無自覚に「女らしさ」でこたえてしまうことが、実は男性が「男は仕事」という限られた範囲で「男らしく」生きることに一役買ってしまうことになるのです。

男性が「男らしい」生き方をしなければならない背景にはそれを支える女性の存在があり、性別で役割を固定してしまうような社会の仕組みは、男女がお互いの「らしさ」に依存しあいながら生きていかざるを得ない状況を作り出してしまうのです。

気づきはじめた男性たち

妻に出産後も仕事を続けてほしいと考える「共働き派」の男性が10年前とくらべると2倍近くに増えています（'04男女共同参画白書）。その背景には厳しい経済的現実があるとはいえ、これまでの性別役割分担や周囲の思惑にとらわれることのない生き方を選択する男性が増えてきたのも事実です。

Sさんは、共働きの妻とは家事を当番制にし、子どもの保育園の行事にはできる限り参加します。親として子どもの成長に関わる機会を大切にしたいと考えているからです。転職によって、高収入と引き換えに家族と共に過ごす時間を取り戻したMさん。看護士の妻と交替で親の介護をするため、会社を辞めてタクシーの運転手になったOさん。会社人間だったTさんは、退職後妻に代わって家事を引き受けていますが、それまでの自分の人生に生活者としての視点が欠けていたことを痛感しています。

こうした例は、お仕着せの役割に違和感を抱き始めた男性たちが、自前の生き方を選択し始めた証しと言えるのではないでしょうか。そして、自分の生き方を主体的に選択することのできるこのような自立した精神こそが、真の男女共同参画社会を作り上げる力になっていくのだと思います。「らしさ」に縛られることも安住することもなく、男女が共に智恵を出し合って、誰もが主役であることのできる社会を作っていきたいものです。

今、男の世界が揺れている！

「男らしさ」から「自分らしさ」へ

男性に質問します！

YES・NOで応えてください

1　ゴミを出したり洗濯物を干すときは近所の目が気になる
2　はっきり意見をいう女性は苦手だ
3　妻より収入が少ないのはおもしろくない
4　家事・育児に支障をきたさなければ、妻が仕事や趣味の世界をもってもよい

ひとつでもYESがあったら、あなたは「男らしさ」の世界に生きている人です。

男性と女性に質問します！

今度生まれるとしたら、
あなたは男性に生まれたいですか？
それとも女性に生まれたいですか？

何故男性に生まれたいのか、
何故女性に生まれたいのか、
その理由を一つ一つ考えていくと、
今あなたが暮らす環境や
あなた自身のなかにあるジェンダーが
見えてくるかもしれません。

「ジェンダー」とは……
社会的文化的に形成された性別やそれに基づく格差。よく使われる言葉として、生物学的な性別を示す「セックス（sex）」という語があります。「ジェンダー（gender）」とは、「セックス」を否定するものではなく、「性別」を他の角度から捉えたものです。

「男は仕事」が揺らぎ始めた

「男は仕事、女は家庭・育児」という男女の固定的役割で生きることへの問い直しがなされて久しくなりますが、依然として多くの男性たちは「男は仕事」の価値観を信じて疑わずに暮らしているのではないでしょうか。

働いて家族を養うことを男性の役割の筆頭においているため、仕事は何事にも優先させるべきことであり、仕事さえがんばっていればその他のことは人まかせになりがちでもしかたがないと思ってきた男性たち。しかし、産業構造が大きく変化して、年功序列や終身雇用が崩れつつあります。倒産やリストラ、中高年男性の自殺など、暗い話題も多くなりました。「男は仕事」と胸を張れない状況が生まれ、男性の生きる価値観に揺らぎをつくり始めたのです。

揺らぎ始めた今こそ、男性たちには、「男は仕事」の陰に存在するものやそこで失ってきた多くのものを見つめ直し、新しい生き方をみつける好機にしてほしいと思います。

「男らしく」育てられる男性たち

男の子を育てる時「男の子なんだから泣くんじゃない！」と言った経験がある人は多いのではないでしょうか。将来大黒柱として家族を養うためには強くたくましくなくてはならないと、社会が男性に期待する価値観に沿って子育てをすることが子どもの幸せになると考える親。いずれ「他家に嫁ぐ」娘より「家の名を継ぐ」息子への思い入れは強く、より良い学校に入りより良い就職をして立派な家庭を持ってほしいと期待する親。こうした親や社会の期待に応えようとして、「自分らしさ」を見失っている男性も多いのです。

それに比べ、大黒柱の期待がかからない女性には、仕事も家庭も子育てもシングルライフもとさまざまな選択肢があり、女性はそこから自分らしい生き方を見つけ始めています。「男らしさ」に縛られていることが人生の選択肢を少なくしていると男性が気づいた時、男性にも自分らしい生き方が見えてくるのではないかと思います。

横須賀の地から

多様な生き方が生まれることを願って

NPO法人『アンガージュマン・よこすか』

不登校やひきこもりの子どもや青年、その家族たちを支援するNPO法人『アンガージュマン・よこすか』が、今年四月に上町に開設されました。代表の小柳良さんと事務局の吉本照子さんにお話を伺いました。

◆アンガージュマン・よこすかの活動

学校に行けない子どもたちを学外で指導する適応指導教室（現ゆうゆう）の父母たちが、自助グループ活動を七年余りするなかで、親だけではなく子どもや若者が安心して集い話し合える場所がほしいと願い、その想いを実現させたのが『アンガージュマン・よこすか』です。フリースペースの提供、学習サポート、相談、自助グループ活動支援など、活動は百家族の会員（七月現在）によって支えられ、不登校やひきこもりの子どもや若者たちがここを基点に社会に出ていく応援をしています。

◆迷い、悩み、自分を責める親たち

子どもが不登校やひきこもりになると、育て方が悪かったのではないか、父親や母親がこうだから、夫婦の関係が悪いから…などと、親はまずは自分を責めてしまいます。子どもが何故こうなったのか理解できず、この現実にどう対応したらよいのかと迷い悩みながらも、直接的に子どもにかかわることが多い母親は、どちらかと言えば子どもの現状を受け入れたいと努めます。しかし、自身が社会の一員としてやってきている父親は、自分と同じように社会とかかわれないわが子をそのまま受け入れることができず、妻を攻撃するような言葉をぶつけることもあるそうです。

◆父親だけの自助グループ『ダッド』

子育てに問題がおきると、母親だけに子育てをまかせる父親のことが取り沙汰されます。しかし父親が子育てに参画するしない以前に、ひたすら働くことを本文としてきた男性たちが社会の規範に裏付けられた社会的言葉しか持ちえていないことの方が問題だとアンガージュマンは考えます。ひとりの人間としての父親の想いが伝わるような言葉を発することができないのです。ともすれば父親は論理的技術的に問題解決しようとしがちなのですが、父親も孤独であり行き迷っているはずということで、父親だけの自助グループ『ダッド』を立ち上げました。以前から父母の集まりには一割ぐらいの父親の参加がありましたが、社会的価値観で生きているからこその男性の辛さや頭だけで考えるきつさなどを気楽に話せる場にしようと、七人の父親が集まりました。家族の中での自分のあり方や、子どもとのかかわり方などを話すことから、自分の生き方が見えるようになれたらよいと思っているそうです。

◆多様な生き方を認め合おう

生産社会から消費社会に移行している現在、新たな価値観（倫理観）が必要であるにもかかわらず、依然として「ひとりは社会性の欠如、みんな一緒に」との生産労働に基づく価値観で子どもたちを囲い込もうとすることの無理。体育祭や合唱コンクールをきっかけに不登校が始まることが多い現実がそれを証明しているのかもしれません。不登校やひきこもりは家庭の中で解決できる事象とするのではなく、社会問題としての視点を持つことで新たな考え方を獲得できるはずです。一人ひとりの生きていくリズムの違いを認め、多様な生き方が理解できる社会にしていかなくては真の問題解決に向ってはいかないとのことでした。

多様な生き方ができる社会とは、まさに男女共同参画社会。自分らしい生き方が選択でき、それを認め合う社会なのです。『アンガージュマン・よこすか』発の多様な生き方が生まれますよう、活動にエールを送りたいと思います。

NPO法人
アンガージュマン・よこすか
横須賀市上町二ノ四
電話　〇四六―八〇一―七八八一

Engagement Yokosuka

傍聴してみませんか？

男女共同参画審議会

横須賀市では、男女共同参画推進のために市民や専門家の意見を汲み上げる機関として、男女共同参画審議会を設置しております。みなさんは審議会を傍聴したことがありますか？審議会では、委員の方々がそれぞれの見識に立って、様々な議論を繰り広げています。是非、傍聴して下さい。開催のお知らせは、広報よこすかお知らせ版（毎月25日発行）や市ホームページに掲載しておりますのでご覧下さい。

県内の女性センター施設案内

男女共同参画推進のための拠点として様々な施設があることをご存知ですか。施設では貸部屋のサービスや様々な講座企画などを実施しており、地域の情報発信源となっています。近くにお寄りの際は、気軽に施設を訪れてみてはいかがでしょうか。

施設名	住所	電話番号
デュオよこすか	〒238-0041 横須賀市本町2-1 横須賀市立総合福祉会館5階	046-822-0804
神奈川県立かながわ女性センター	〒251-0036 藤沢市江の島1-11-1	0466-27-2111
横浜女性フォーラム	〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1	045-862-5050
フォーラムよこはま	〒220-8113 横浜市西区みなとみらい2-2-1-1 ランドマークタワー13階	045-224-1133
川崎市男女共同参画センター （すくらむ21）	〒213-0001 川崎市高津区溝口2-20-1	044-813-0808
おだわら女性プラザ	〒250-0011 小田原市栄町1-14-41 音羽プラーザビル2F	0465-22-3719
茅ヶ崎市女性センター	〒253-0044 茅ヶ崎市新栄町12-12 茅ヶ崎トラストビル4階	0467-57-1414
ソレイユさがみ （相模原市立男女共同参画推進センター）	〒229-1103 相模原市橋本6-2-1 シティ・プラザはしもと内	042-775-1775
あつぎパートナーセンター	〒243-0018 厚木市中町1-4-3	046-225-2500
南足柄市女性センター	〒250-0105 南足柄市関本591-1ヴェルミ3（3階）	0465-73-8211
愛川町中津公民館 （レディースプラザ）	〒243-0303 愛川町中津293番地の3	046-285-1600

※いずれの施設もホームページを開設しておりますのでご覧下さい。

編集後記

☆中高年で元気印だが、生活全体守りの姿勢でした。編集仲間に背中を押され、社会に目を向けます。家庭生活、自分の人生設計たて直します。 **岡田みよ子**

☆男女の間にとてつもない深い溝があるならば、溝を楽しむくらいの余裕をもって暮らしていきたいなっと。 **小栗　房子**

☆男の子も女の子も「自分らしく」生きていけるようサポートするのが親の務め。決して足を引っ張ることのないように、肝に銘じて子育てしなくては。 **島田　真紀**

☆女性たちはとうの昔に「らしさ神話をぶっとばせ！」と声を上げました。「男はつらいよ！」はもうやめて、今こそ男性が声を上げなくちゃ。 **鈴木しげこ**

☆つまるところ大切なのは男とか女とかではなく、一人の人間としてどういう生き方ができるかということなのでしょう。編集委員を終える今、また新たな目標に向かってスタートです。 **吉川伊津子**

◎ニューウェーブは公募による市民の方によって、企画編集を行っています。
◎この広報紙は13,000部製作し、1部当たりの印刷経費は28.5円です。

表紙の作品・イラスト　嬢央

皆様のご意見やご感想をお待ちしています。

横須賀市市民部男女共同参画課　〒238－8550　横須賀市小川町11　☎046－822－8228
e-mail　we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp
ホームページ　http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/gender/